



からだ うもつ せきつい どうぶつ
 体が羽毛におおわれた脊椎動物。
 まえ へんけい
 前あしが変形してつばさとなった。
 ほね かる しょうぶ こうぞう そら と
 骨は軽くて丈夫な構造で、空を飛ぶ
 ためのつくりとなっている。



□キジ (キジ目キジ科)
 にほん こくちょう かお あか ひ なが
 日本の国鳥。オスは顔の赤い皮ふと長い
 しま模様のおぼねめだ
 しま模様の尾羽が目立つ。
 な
 「ケーン、ケーン」と鳴く。



□コジュケイ (キジ目キジ科)
 ちゅうごく も き なかま
 中国から持ちこまれて来たキジの仲間。
 な ごえ おお な
 鳴き声が大きく、「チョットコイ」と鳴いてい
 るように聞こえる。



□ヒシクイ (カモ目カモ科)
 よ おおがた なかま
 ガンと呼ばれる大型のカモの仲間。
 ふゆ わ にほん く なまえ
 冬に群れて日本にやって来る。名前のと
 おり、ヒシの実などを食べる。



□オオハクチョウ (カモ目カモ科)
 ふゆ にほん とらい おおがた しろ みずとり
 冬に日本に渡来する大型の白い水鳥。
 わか こたい しろいろ
 つばさを広げた長さは2m以上になる。
 若い個体はくすんだ白色をしている。



□オシドリ (カモ目カモ科)
 たさい いろ あ なかま
 多彩な色合いをしたカモの仲間。
 はて もよう
 オスは派手な模様をしているが、メスは
 ぜんしん はいかつしよく お つ いろ あ
 全身が灰褐色で落ち着いた色合い。



□ヒドリガモ (カモ目カモ科)
 な なかま
 「ピューウ、ピューウ」と鳴くカモの仲間。
 あたま あかちやいろ ひたい いろ
 オスは頭が赤茶色で、額がクリーム色を
 している。写真の個体はオス。



□マガモ (カモ目カモ科)
 ふゆどり にほん とらい いっしゅ
 冬鳥として日本に渡来するカモの一種。
 あおみどりいろ あたま きいろ
 オスは青緑色の頭と黄色いくちばしが
 とくちょう べつめい よ
 特徴で、別名「あおくび」と呼ばれる。



□カルガモ (カモ目カモ科)
 ねんじゅう み もつ みちか いっしゅ
 1年中見られる最も身近なカモの一種。
 せんたん きいろ
 くちばしの先端だけが黄色い。オスもメス
 もおな たいしよく
 も同じような体色をしている。



□ハシビロガモ (カモ目カモ科)
 なが はばひろ
 シャベルのような長く幅広いくちばしが
 とくちょう くら みず と すいちゆう
 特徴。そのくちばしで水を取りこみ、水中
 のプランクトンなどを食べる。



□オナガガモ (カモ目カモ科)
 ちやいろ あたま しろ き
 オスはこげ茶色の頭に白い切れこみが
 はい くら おおね とくちょう
 入る。黒くて長い尾羽が特徴だが、メス
 (写真左の個体)の尾羽は長くない。



□コガモ (カモ目カモ科)
 おな ふゆ とらい いっしゅ
 マガモと同じく冬に渡来するカモの一種。
 ほか からだ ちい
 他のカモより体が小さい。
 みどり ちやいろ あたま
 オスは緑と茶色の頭をしている。



OH

□ホシハジロ (カモ目カモ科)

オスは灰色の体に赤茶色の頭、赤い目(虹彩)をしており、メスは全体的にうす茶色。写真の個体はオス。



AT

□キンクロハジロ (カモ目カモ科)

冬鳥として渡来するカモの一種で、オスは白と黒のツートンカラーが特徴。オス・メスともに虹彩は黄色い。



SN

□カイツブリ (カイツブリ目カイツブリ科)

弁足というカモ類とは異なる足を持ち、水にもぐるのが得意。ひなを背中に乗せて子育てする。



□カンムリカイツブリ (カイツブリ目カイツブリ科)

恋の季節(3月ごろ)になると王冠のような羽根が頭に生え、求愛のダンスをおどる。



□カワラバト (ドバト) (ハト目ハト科)

街中で一番多いハト。体の模様は個体によって変異が多い。かつては伝書バトとして文書のやりとり用にいられた。



□キジバト (ハト目ハト科)

「デーデーポッポー」という声で鳴く身近なハト。首には青と白の美しいしま模様がある。



SN

□アオバト (ハト目ハト科)

あざやかな緑色をしたハト。メスは全身が緑色だが、オスのつばさはブドウ色になる。写真の個体はオス。



NI

□カワウ (カツオドリ目ウ科)

全身が黒い大きな水鳥。もぐって魚を捕まえる。近年、個体数が増えており、数百羽の群れをつくることもある。



□ゴイスギ (ペリカン目サギ科)

赤い虹彩が特徴の首が短いサギの仲間。日が暮れると活動が活発になる。幼鳥はまだら模様で「ホシゴイ」と呼ばれる。



□ササゴイ (ペリカン目サギ科)

つばさにササの葉のような模様がある。ゴイスギと似ているが、体が少し小さく、虹彩は黄色い。



□アオサギ (ペリカン目サギ科)

青みがかった灰色の大型のサギの仲間。魚などをねらい、水辺で待ちぶせする姿がよく見られる。



AT

□ダイサギ (ペリカン目サギ科)

日本のシラスギの中で最も大きい。水辺を歩いて魚などを探して食べる。冬には更に大きな亜種が渡来する。



□チュウサギ(ペリカン目サギ科)
ちゅうかん おお
ダイサギとコサギの中間くらいの大きさ。
なつ にほん どれい おお かわ た
夏に日本に渡来する。大きな川より田んぼや水路などにいることが多い。



□コサギ(ペリカン目サギ科)
ちい もっと み
小さなシラサギで最もよく見られる。
あし すいめん ふる みなそこ かく さかな
足を水面で震わせて水底に隠れる魚をおびき出して捕らえることがある。



□クイナ(ツル目クイナ科)
みずべ ほら せいそく
水辺のそばにあるヨシ原などに生息する。
きけん かん かく あか
危険を感じるとすぐに隠れてしまい、明るい場所にはなかなか出てこない。



□ヒクイナ(ツル目クイナ科)
あか なかま
全身が赤いクイナの仲間。「コツ コツ …」
しだい はや な
と次第にテンポが速くなるように鳴き、「クイナの戸たたき」と呼ばれる。



□バン(ツル目クイナ科)
あか がくばん とくちょう あし みず
赤い額板とくちばしが特徴。足に水かきが
およ ながて なつ じき た
ないため泳ぎは苦手。夏の時期は田んぼのイネの間を歩き回っている。



□オオバン(ツル目クイナ科)
しろ がくばん とくちょう ひとまわ
白い額板とくちばしが特徴。バンより一回り大きい。足に水かき代わりに役割をもつヒダ(弁膜)があり、上手に泳ぐ。

シラサギ3種(ダイサギ・チュウサギ・コサギ)の見分け方

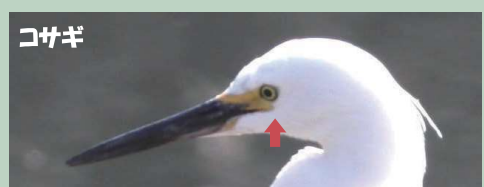
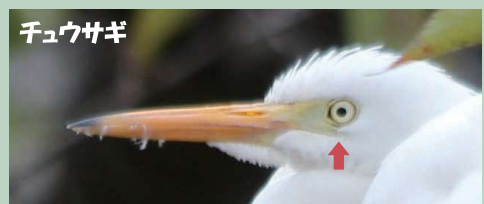
ダイサギ、チュウサギ、コサギという白いサギ類は俗にシラサギと呼ばれています。
シラサギ3種には大きさや首の長さ以外にもいくつか見分けるポイントがあります。

■顔

ダイサギとチュウサギは口角(口の端)の位置が異なります(写真の赤矢印)。ダイサギは目より後ろに口角があるのに対して、チュウサギとコサギは目と同じくらいの位置に口角があります。

■足

コサギは黄色い足の指をしていますが、ダイサギとチュウサギの足の指は黒色です。





□コチドリ(チドリ目チドリ科)

め まわ きいろ わ めだ ことり
目の周りの黄色い輪が目立つ小鳥。
あさち うめたてち とさ ちゅうしやじょう ちじょう
空地や埋立地、時には駐車場の地上に
こいし たまご う
小石そっくりの卵を産む。



□タシギ(チドリ目シギ科)

なが とくちよう なかま
長いくちばしが特徴のシギの仲間。
ふくざつ もよう くれくさ おお ばしよ
複雑な模様は枯草などが多い場所では、
けしき と み
景色に溶けこみ見つかりづらい。



□イソシギ(チドリ目シギ科)

なまえ みちか かわら
「イソ」という名前だが、身近な河原など
み な が どり
でも見られるくちばしの長い鳥。
とくちよう こえ な
「チーリーリー」と特徴のある声で鳴く。



□ユリカモメ(チドリ目カモメ科)

ふゆどり ぜんこく かいがん ひがた とらい
冬鳥として全国の海岸や干潟に渡来する
こがた なかま
小型のカモメの仲間。
あか あし とくちよう
赤いくちばしと足が特徴。



□セグロカモメ(チドリ目カモメ科)

せなか はいいろ おお
背中がうすい灰色の大きなカモメ。
かいがん ぎょう おお せいそく かわぐち しない
海岸や漁港に多く生息するが、川口市内
おお かせん ちか み
でも大きな河川の近くで見られる。



□コアジサシ(チドリ目カモメ科)

かいがん かせん みずべ せいそく
海岸や河川などの水辺に生息するアジサ
なかま いきお すいちゆう と
シの仲間。勢いよく水中に飛びこんで
こざかな つか
小魚などを捕まえる。



□トビ(タカ目タカ科)

もつと みちか み おお なかま
最も身近に見られる大きなタカの仲間。
と とさ おぼね だいけい み
飛んでいる時に尾羽が台形に見える。
な
「ピーヒョロヒョロ」と鳴く。



□ツミ(タカ目タカ科)

ていど おお こがた なかま
ハト程度の大きさの小型のタカの仲間。
かんどう ちほう まちなか こうえん じんじや
関東地方では、街中の公園や神社などの
りよくち こ そだ
緑地でも子育てをする。



□ハイタカ(タカ目タカ科)

おお ちい
ツミよりやや大きく、オオタカより小さいタ
なかま なか いろ
カの仲間。オスはお腹がオレンジ色になる
こたい み
個体も見られる。



□オオタカ(タカ目タカ科)

おお なかま
カラスほどの大きさのタカの仲間。
と
するどい足のつめでハトやスズメなどを捕
た た
らえて食べる。



□サシバ(タカ目タカ科)

なつ にほん とらい なかま さとやま
夏に日本に渡来するタカの仲間。里山に
す こんちゆう と た
巣をかけ、トカゲや昆虫を捕らえて食
おお こえ な
る。「ピックイー」と大きな声で鳴く。



□ノスリ(タカ目タカ科)

たいけい なかま じゅもく
ずんぐりとした体型のタカの仲間。樹木や
でんちゆう けいこう
電柱のてっぺんにとまる傾向がある。
なか はらま もよう とくちよう
お腹の腹巻きのような模様が特徴。



SS

□フクロウ(フクロウ目フクロウ科)

夜行性でネズミなどを捕まえて食べる。
羽に細かな毛が生えており、飛ぶ時に大きな羽音が出ないつくりとなっている。



OH

□カワセミ(ブツポウソウ目カワセミ科)

宝石のような青い羽の美しい小鳥。
水辺の枝にとまり、小魚を見つけるとくちばしから飛びこんで捕まえる。



EH

□コゲラ(キツツキ目キツツキ科)

スズメほどの大きさの日本で一番小さなキツツキ。雑木林だけでなく、公園や街路樹でも見かけることが多い。



AK

□チョウゲンボウ(ハヤブサ目ハヤブサ科)

都市部にも生息する小さなハヤブサの仲間。田んぼや草原の近くの木や電柱にとまってネズミやカエルを探す。



□ハヤブサ(ハヤブサ目ハヤブサ科)

ハヤブサはタカと異なり、つばさが三角の形をしている。えものを追って急降下するスピードは新幹線よりも速い。



EH

□ワカケホンセイインコ(インコ目インコ科)

あざやかな緑色をしたインコ。
カゴから逃げ出した個体が野外に住み着き、関東平野に広がっている。



OH

□モズ(スズメ目モズ科)

鋭いくちばしをもち、小さな猛禽類とも呼ばれる小鳥。捕まえたえものを木の枝に刺す「はやにえ」という習性がある。



SN

□カケス(スズメ目カラス科)

ほかの鳥の鳴きまねが得意なカラスの仲間。鳴きまねは鳥だけではなく、人の声や機械の音などもまねることがある。



□オナガ(スズメ目カラス科)

水色の長い尾羽をもつカラスの仲間。
明るい林やその近くの住宅地でよく見られ、「ゲーゲー」と鳴く。



SN

□ハシボソガラス(スズメ目カラス科)

田畑や公園など様々な場所で見られるが大都市では数が少ない。
「ガーガー」とにごった声で鳴く。



SN

□ハシブトガラス(スズメ目カラス科)

都市部で多く見られる最も身近なカラス。「カーカー」と澄んだ声で鳴く。



OH

□ヤマガラ(スズメ目シジュウカラ科)

オレンジ色のお腹が目立つシジュウカラの仲間。昆虫や木の実を食べる雑食性だが、特にエゴノキの実を好む。



EH

□シジュウカラ (スズメ目シジュウカラ科)

身近に見られるスズメほどの大きさの
小鳥。胸にネクタイのような黒い模様があり、オスのほうが模様が太い。



KE

□ヒバリ (スズメ目ヒバリ科)

草原や田んぼに生息する小鳥。
春になると自分のなわばりをアピールするために飛び上がって鳴き続ける。



SN

□ツバメ (スズメ目ツバメ科)

人家やビルの軒下などに泥と枯れ草で作った巣をかける。高い飛行能力をもち、生活のほとんどを飛びながら行う。



AT

□ヒヨドリ (スズメ目ヒヨドリ科)

木の実や花の蜜が好物で、公園や街路樹などで普通に見られる。
「ヒーヒーヨ」と大きな声で鳴く。



OH

□ウグイス (スズメ目ウグイス科)

「ホーホケキョ」と鳴くうす茶色の小鳥。
春を告げる鳥として親しまれている。
秋から冬は「チツチツ」と鳴く。

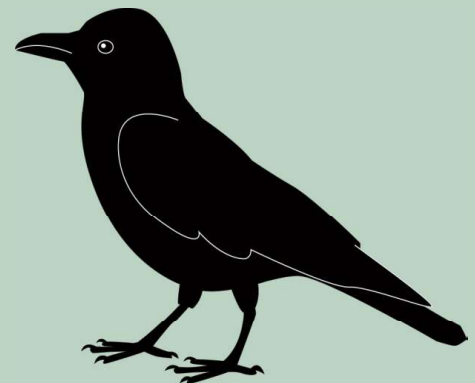


SN

□エナガ (スズメ目エナガ科)

白い体に黒い尾羽が特徴の小鳥。
よく集団で行動し、昆虫などのえものを求めて木を転々とする。

ハシボソガラスとハシブトガラスの見分け方



	ハシボソガラス	ハシブトガラス
おお 大きさ あたま おばね (頭から尾羽まで)	50cm	55~57cm
な ごえ 鳴き声	ガーガーとにごった声で鳴く	カーカーと澄んだ声で鳴く
かお 顔	くちばしは細めで、曲がり小さい おでこは出っ張っていない	くちばしは太く、やや曲がっている おでこが出っ張って見える
ある かた 歩き方	さゆう あし こうご だ ある 左右の足を交互に出してテクテクと歩く	りようあし と は ある 両足そろえて飛び跳ねるように歩く
せいそくばしょ 生息場所	たはた ひら ばしょ この 田畑など開けた場所を好む	もり まち い く ばしょ この 森や街など入り組んだ場所を好む



OH

□メジロ (スズメ目メジロ科)

め まわ しろ わ めだ きみどりいろ
目の周りの白い輪が目立つ黄緑色の
こどり じんか にわさき こうえん み
小鳥。人家の庭先や公園などでもよく見
られる。



HM

□オオヨシキリ (スズメ目ヨシキリ科)

なつどり とらい はら かせんじき
夏鳥として渡来し、ヨシ原や河川敷に
せいぞく
生息する。なわばりをアピールするため、
おお こえ な
「ギョシギョシ」と大きな声で鳴く。



MS

□セツカ (スズメ目セツカ科)

そうげん ひら ばしよ この こどり
草原などの開けた場所を好む小鳥。
じょうしょうじ かこうじ
上昇時は「ヒッヒッヒッ」と、下降時は
な と
「ジャツジャツ」と鳴きながら飛ぶ。



AT

□ムクドリ (スズメ目ムクドリ科)

しろくろ からだ きいろ あし
白黒の体に黄色のくちばしと足をもつ
みちか とり しゅうだん の よる
身近な鳥。集団でねぐらをつくり、夜に
まちなか がいるじゅ あつ
街中の街路樹などに集まることある。



SN

□トラツグミ (スズメ目ツグミ科)

ぜんしん しろ うろこ もよう とくちよう
全身の黒い鱗のような模様が特徴。
よる
夜に「ヒューヒュー」とか細い声で鳴くた
きみ わる
め、気味悪がられることがある。



SN

□シロハラ (スズメ目ツグミ科)

なか しろ なかま
お腹が白いツグミの仲間。
お ぼ の 仲 間
くちばしで落ち葉をかき分け、落ちている
き み さが た
木の実やミミズなどを探して食べる。



MS

□アカハラ (スズメ目ツグミ科)

なか しろ なかま
お腹がオレンジ色のツグミの仲間。
かお しろいろ こ
オスのほうがメスよりも顔の黒色が濃い。
な
「キョロン キョロン チー」と鳴く。



AT

□ツグミ (スズメ目ツグミ科)

ふゆ ぜんこく とらい ふゆどり だいひょうかく
冬になると全国に渡来する冬鳥の代表格
そんざい なか しろ もよう こたい
のような存在。お腹の黒い模様は個体によ
こと
って異なる。



KT

□ルリビタキ (スズメ目ヒタキ科)

ふゆ こうち へいち いどう
冬になると高地から平地に移動するた
こうえん ぞうきばやし み あおい
め、公園や雑木林で見られる。オスは青色
めだ めた あお
が目立つが、メスは尾羽だけが青い。



AT

□ジョウビタキ (スズメ目ヒタキ科)

ふゆどり ぜんこく とらい こどり あか ひら
冬鳥として全国に渡来する小鳥。明るく開
ばしよ この じんか にわさき こうえん
けた場所を好み、人家の庭先や公園など
み な
で見られる。「ヒツヒツ」と鳴く。



OH

□イソヒヨドリ (スズメ目ヒタキ科)

いわば みずべ み こどり
岩場や水辺によく見られる小鳥。
せいじゆく あお あたま
成熟したオスは青い頭とつばさ、オレンジ
いろ なか しゃん こたい
色のお腹をしている。写真の個体はメス。



AT

□スズメ (スズメ目スズメ科)

もっと みちか ぶか こどり
最も身近でなじみ深い小鳥。
すた こたい きいろ
巣立ったばかりの個体はくちばしが黄色
からだ いろ
く、体の色がうすい。



EH

□キセキレイ(スズメ目セキレイ科)

お腹が黄色いセキレイの仲間。
溪流を好み生活するが、冬には市街地の公園の水辺などでも見られる。



AT

□ハクセキレイ(スズメ目セキレイ科)

長い尾羽を振りながら歩く姿がよく見られる。地上を歩き回り、昆虫などを捕まえて食べる。



SS

□セグロセキレイ(スズメ目セキレイ科)

ハクセキレイより顔の黒い部分が多く、水辺に近い環境で見られることが多い。「ジジジジ」と鳴く。



EH

□アトリ(スズメ目アトリ科)

冬鳥として全国に渡来するが、渡来数は年によってバラツキがあり、多い年には数万羽の大群になる。



□カワラヒワ(スズメ目アトリ科)

太いくちばしとつばさの黄色い模様が特徴の小鳥。冬には数十羽の群れをつくって行動する。



MS

□ベニマシコ(スズメ目アトリ科)

くちばしが太くて短いピンク色の小鳥。冬になるとヨシなどの背の高い草むらの中で暮らす。



□シメ(スズメ目アトリ科)

太くて短いくちばしが特徴の小鳥。植物の種を好み、くちばしでかたい木の実に割って食べる。



HM

□ホオジロ(スズメ目ホオジロ科)

顔の白い模様が特徴の小鳥。開けた環境を好み、草原やヨシ原などさまざまな環境に生息している。



MS

□ホオアカ(スズメ目ホオジロ科)

ほおの赤い模様が特徴のホオジロの仲間。冬場は平地のヨシ原などで越冬するが、川口市内での目撃数は少ない。



SY

□カシラダカ(スズメ目ホオジロ科)

背中に鱗のような模様があるホオジロの仲間。頭の羽(冠羽)を逆立てる様子から「頭高」と名付けられた。



□アオジ(スズメ目ホオジロ科)

黒っぽい緑の頭と黄色のお腹が特徴のホオジロの仲間。冬になると山を下り、公園や雑木林で見られるようになる。



AT

□オオジュリン(スズメ目ホオジロ科)

冬のヨシ原に現れるホオジロの仲間。ヨシの茎をこじ開けて中にあるカイガラムシなどをつまみとって食べている。